aculty of Intercultural Communication Department of Intercultural Communication

一 対 常 学部長 兼グローカル文化学専攻長・教授 博士(比較社会文化)

Toru Okamura

⊠ toru.okamura@komatsu-u.ac.jp

Keyword

英語社会言語学、英語の多様性と国際化、言語接触

プロフィール

2000年 豪ニューイングランド大学 言語文化学部 客員研究員 2004年 九州大学大学院 比較社会文化学府 博士後期課程 修了

2009年 帝塚山学院大学 リベラルアーツ学部 教授

2018年 公立小松大学 国際文化交流学部 国際文化交流学科 教授

研究分野

英語学、言語学、社会言語学

所属学協会

日本言語学会、日本アジア英語学会、オーストラリア学会、日本オセアニア学会、 オセアニア言語研究会

専門分野・研究分野

言語を地域、階層、年齢、民族、性別との関係で 観察すると興味深い実態が見えてくる

一口に言語と言っても、地域や年齢が異なればその実態は異なります。例 えば小倉から新幹線に乗車して関西に来るまでに「~をしてはイケナイ」 は実際、様々な変異形を耳にすることができます(イケン、オエン、アカン など)。またオーストラリアでは英国や米国と異なり、barbecue のことを barbie, poker machineのことをpokieと言います(-ie は指小辞)。ちなみにマ クドナルドもマッキーと呼びます。このような地理的な差異を年齢や性別や 民族といった社会的属性と絡めて研究しています。主なフィールドは日本、 オーストラリア、パプアニューギニア、ナウル共和国、ノーフォーク諸島で す。

研究内容

言語間接触および名詞句階層理論の研究

豪州クイーンズランドの砂糖黍農園で成立したピジン英語は、オーストラ リア英語とメラネシアの諸言語が接触して誕生しました。この言語では例え ば英語のI ask you.はMi askim yu.となります。mi も ask も yu も英語から語 彙を借りてきていますが、他動詞を表わす接尾辞-im のようなはたらきは英 語にはありません。この要素はメラネシアの在来の言語では一般的です。ま たピジン英語では複数を表示するのに ol という形態を名詞とともに使って 表しますが、このolと共起する名詞はいわゆる名詞句階層上の高いところに あるものと相性が良いことがわかってきました。これは自然言語と何ら変わ りはありません。この研究は、ことばはなぜ変化するのか、ことばの獲得はど のようになされるのか、ことばはどのようにして誕生するのか、といった諸 問題の解決に寄与する方向性を持ちます。





図 1. パプアニューギニアのフィマ村での現地調査



シーズ・地域連携テーマ例

■ 英語圏への海外出張と文化理解

論文

- Peter Mühlhäusler の言語観 (2), 岡村徹,『国際文化』7, 31-42, 公立小松大学国際文化交流学部紀要, 2025 (研 究ノート)
- 隠語とピジン語の発達過程に関する考察, 岡村徹, LLO 15: 34-55, The Japanese Association of Linguistics in Oceania, 2023
- ナウル共和国のピジン英語の保持にかかわる諸問題,岡 村徹,『オーストラリア・アジア研究紀要』6:1-21, オー ストラリア・アジア研究所, 2022
- Relations between the 67th Garrison of the Japanese Imperial Navy and Nauruan Women during the Second World War, Okamura, T, People and Culture in Oceania, 37: 31-49, The Japanese Society for Oceanic Studies, 2021
- Preserving the Nauruan language and Pidgin English in Nauru, (Eds.) Okamura, T. & M. Kai, The Indigenous Language Acquisition, Maintenance, and Loss and Current Language Policies, pp. 103-123, IGI Global, US, 2020

書籍笔出版物

- ■『パプアニューギニアを知るための60章』〈エリア・スタ ディーズ〉田所聖志・梅﨑昌裕・馬場淳編, 分担執筆, 明石書店, 2025
- ■『シリーズ地域研究のすすめ ようこそオセアニア世界へ』 石森大知・黒崎岳大(編), 分担執筆, 昭和堂, 2023
- The Indigenous Language Acquisition, Maintenance, and Loss and Current Language Policies, Okamura, T. & M. Kai, IGI Global, 2020
- ■『オセアニアの言語的世界』岡村徹/ヤラペア, A. (編), 渓水社, 2013
- Language in Papua New Guinea, (Ed.) Okamura, Toru., Hituzi Syobo Publishing, 2007
- ■『オセアニアのことば・歴史』岡村徹,渓水社,2006
- 『はじめてのピジン語:パプアニューギニアのことば』 岡 村徹, 三修社, 2005

講演・口頭発表等

■「トク・ピシンの条件節を導くsaposをめぐって」岡村徹, 第41回日本オセアニア学会研究大会, 2024.03.24

競争的資金等の研究課題

- 科学研究費補助金 (基盤研究C),「ナウル共和国および 豪州ブリズベンにおける言語接触・言語保持の研究(1)」 研究代表者 岡村徹, 2020-2022年度
- 科学研究費補助金 (基盤研究C),「ナウル共和国および 豪州ブリズベンにおける言語接触・言語保持の研究(2)」 研究代表者 岡村徹, 2023-2025年度

社会貢献活動

■「世界の都市を歩く」講座(第2弾):「豪州アーミデー ル市の魅力:薪ストーブとともに」(こまつ市民大学, 2024, 07, 20)

杓谷 茂樹 學科長·教授

Shigeki Shakuya

⊠ shigeki.shakuya@komatsu-u.ac.jp

研究 Keyword

観光、文化遺産、文化イメージ、持続可能性、マヤ文明

プロフィール

2001年 総合研究大学院大学 文化科学研究科 博士後期課程 単位取得満期退学

2005年 中部大学 国際関係学部 国際文化学科 助教授

2010年 中部大学 国際関係学部 国際文化学科 教授

2018年 公立小松大学 国際文化交流学部 国際文化交流学科 教授

2023年 次世代考古学研究センター小松の石文化(日本遺産)研究部門併任

研究分野

文化人類学 / 文化人類学·民俗学

所属学協会

観光学術学会、日本遺跡学会、日本文化人類学会、日本ラテンアメリカ学会、古代アメリカ学会、

天理大学アメリカス学会

専門分野·研究分野

観光地で生産され消費される文化イメージ

「文化人類学」の授業で、私は文化というものを自分たちの「あたりまえ」として学生に語っている。「あたりまえ」が違うからカルチャーショックが起こるわけである。ところが、高度に観光化が進んだ場所では、その場所にとって「あたりまえ」のはずの文化が、観光客を送り込んでくる側の人々によって、一方的に操作され、勝手に語られるということが日常的に起こってきた。だが、最近では地元社会がこれに対して異議申し立てを行う形で、自律的に観光に関与するようになってきた。こうした地域住民による持続可能な観光のあり方の模索は、21世紀の観光研究の主要なテーマといえる。

研究内容

世界遺産チチェン・イツァと その周辺の地域社会を中心として

「マヤ文明」というとどんなイメージをお持ちだろうか? 実は考古学や文化人類学の研究の進展が新たな知見を提供している一方で、相変わらず「謎」や「神秘」という言葉で語られるようなイメージがつきまとっているのが「マヤ文明」なのだ(写真1)。こうしたイメージは主に観光客となる外部の人間、あるいは観光地との間を仲介するメディアや観光業界の側



写真 1. チチェン・イツァのピラミッド

で一方的に作られる(写真 2)。その結果、当該文化の担い手である地域住民は 観光の現場で「蚊帳の外」に置かれることになってきた(写真 3)。

私の研究は、そうした状況下での文化イメージが日常的にいかに作られ、またどのように売買されているのかを考察し、それに学術的な情報が適正に反映され、また文化の担い手である地域住民がちゃんと関わっていけるような適切な方向性を見いだしていこうとするものであり、身近な地域創生の問題ともリンクする。



写真2. 夜に行われるプロジェクションマッピング



写真3. 遺跡公園内で不法に商売する 地元の人たち



シーズ・地域連携テーマ例

- ■世界遺産、ラテンアメリカ文化、マヤ文明に関する講演、 レクチャー
- 世界遺産検定受検に関するアドバイス
- 文化財とまちづくりに関するアドバイス、etc.

論文

- 資源としての「古代都市チチェン・イツァ」- 交叉するステークホルダーそれぞれの思惑と地元露店商, 杓谷茂樹, 古代アメリカ, 第18 号, pp.117-130, 2015
- "Una perspectiva sobre el problema de la invasión ilegal de los vendedores locales en la Zona Arqueológica de Chichén Itzá, Yucatán, México", Seiichi Nakamura, Takuro Adachi and Masahiro Ogawa eds., Japanese Contributions to the Studies of Mesoamerican Civilizations: The 40th Anniversary of La Entrada Archaeological Project (Studies in Ancient Civilizations vol. 1), Institute for the Study of Ancient Civilizations and Cultural Resources, Kanazawa University, 2023

書籍等出版物

- ■『ラテンアメリカ文化事典』ラテンアメリカ文化事典編集 委員会編、丸善出版、2021年。
- ■「チチェン・イツァの観光振興と長期化する地元露店商の不法侵入問題」『古代アメリカの比較文明論 メソアメリカとアンデスの過去から現代まで』青山、米延、酒井、鈴木編、pp.317-328、京都大学学術出版会、2019年。
- ■「多様なツーリズム マスツーリズムから「新しい観光」まで」石井久生、浦部浩之編、『世界地誌シリーズ10 中部アメリカ』、pp.121-132、朝倉書店、2018年。
- ■「切り拓かれるべき自然、包み込む「自然」- カンクン・ホテルゾーンの遺跡公園の見せ方を巡って」、天理大学アメリカス学会編、『アメリカのまなざし 再魔術化される観光』、pp.232-251、天理大学出版部、2014年。

講演・口頭発表等

- マスツーリズム状況下の文化遺産と自然 メキシカンカ リブ北部の遺跡公園の事例から、杓谷茂樹、第18回国際 ラテンアメリカ・カリブ研究会議 2017年7月27日
- 世界遺産チチェン・イツァの観光イメージ:継続する地元露店商の不法侵入と遺跡イメージの適切なコントロールについて、杓谷茂樹、第1回国際メソアメリカニスト会議 2016年10月30日

競争的資金等の研究課題

- 被征服者が生んだ現代メキシコとその軌跡:歴史的資源 の通時的研究による新たな歴史像 日本学術振興会:科 学研究費補助金:基盤研究(B)(一般)2022年-2025年
- ■「自然」が文化資源化されるマスツーリズム的状況の観光 人類学的研究 日本学術振興会:学術研究助成基金助成 金(基盤研究C)(一般) 2020年-2023年
- 植民地時代から現代の中南米の先住民文化 日本学術振興会:科学研究費補助金(新学術領域研究(研究領域提案型))2014年7月-2019年3月

社会貢献活動

世界遺産検定監修 NPO法人世界遺産アカデミー (2016年 - 現在)

小原 文衛 学長補佐(教育·国際交流担当)·教授 博士(文学)

Bunei Kohara

⊠ bunei.kohara@komatsu-u.ac.jp

研究 Keyword

英米・英語圏文学、アメリカ文学、映画研究

プロフィール

1994年 金沢大学大学院 文学研究科 英文学専攻 修士課程 修了

1994年 金沢大学 文学部 助手

2009年 金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 准教授

2018年 公立小松大学 国際文化交流学部 国際文化交流学科 准教授 2021年 公立小松大学 国際文化交流学部 国際文化交流学科 教授

研究分野

アメリカ映画、精神分析、アメリカ文学

所属学協会

日本映画学会、日本映像学会、日本アメリカ文学会

専門分野·研究分野

アメリカ映画を統合的な方法で研究し、 その深層にある政治的・歴史的・心理的な意味 を探り、アメリカという集団意識を解明する。

映画研究には、大別すると、映画技法論に関する研究、映画の物語構造に関する研究、映画を社会的なコメンタリーととらえ、その深層にある政治的主張・歴史学的な意味を読み取ろうとするコンテクスト研究があります。ここに映画と映画の関係を考える映画史的な研究及びジャンル研究と心理学的な研究を加えることができますが、私は、こうした多様な映画研究の方法を統合して、アメリカ映画に内在する意味を様々な角度から明らかにすることに取り組んできました。これは同時に、映画というメディアが、社会・文化にとってどのような表現機能を果たしているのか、というより一般的な問いの解決にもつながっていきます。

研究内容

アメリカ映画における〈籠城〉のモチーフの 歴史学的・心理学的・政治学的な意味の解明

アメリカ映画に頻繁に登場するモチーフとして〈籠城〉のモチーフがあります。攻囲や籠城は中世に起源をもつ極めて西洋的な戦法ですが、D.W. グリフィス監督『國民の創生』(1915) から西部劇、戦争映画、ジョージ・A・ロメロ監督『ナイト・オブ・ザ・リビングデッド』(1968) などのいわゆるゾンビ映画というホラーのサブジャンル、ジョン・カーペンター監督『要塞警察』(1976) からチャン・イーモウ監督の米中合作『グレート・ウォール』(2016) に至るアクション映画、あるいはクリス・コロンバス監督『ホーム・アローン』(1990) のようなコメディ映画のなかに、ジャンルを超えて、様々に形を変えて現れています。私の研究では、西部劇におけるアメリカ先住民と植民者との攻防を籠城モチーフの意味論的なテンプレートとして上記のような映画群の統合的な分析を行い、〈新大陸発見〉・インディアン戦争における暴力の記憶が映画の中に「アレゴリー」として出現することを実証的に示してきました。これは共同体の無意識にとって、「語りえぬものを語る」ことができる映画がどのような機能を果たしているのか、という研究につながっていきます。



図. 名古屋大学にてゾンビ映画とアメリカ 文学の関係性について講演



シーズ・地域連携テーマ例

- アメリカ映画を活用した英語教育とメディアリテラシーの養成
- 映画上映会の企画, コメンタリー

受賞

■ 第3回金沢大学英文学会奨励賞(1999年11月)

論文

- ヘミングウェイからタランティーノへ一身体/武器の系譜学, ヘミングウェイ研究, 第24号, 75-86, 2023.
- ゾンビの詩学――〈追跡〉と〈籠城〉のモチーフについて、 IVY, 第49号, 67-88, 2016
- 映画と精神分析, 日本英文学会会報, 37, 2-4, 2013
- JAWS (1975) の〈欲動〉論,金沢大学歴史言語文化系 論集 言語・文学篇,第5号,31-46,2013

書籍等出版物

- ■『メディアと帝国』宗形賢二、塚田幸光、中垣恒太郎、中山悟視、細谷等、小笠原亜衣、小谷一明、髙村峰生、池末陽子、村上東、河田英介、大田信良、小鳥遊書房、2021年
- ■『映画とジェンダー/エスニシティ』、塚田幸光、清水知子、小原文衛、吉村いづみ、山本佳樹、羽鳥隆英、キンバリー・イクラベルジー、鈴木繁、久保豊、紙屋牧子、ミネルヴァ書房、2019年
- ■「路と異界の英語圏文学」、森 有礼、小原 文衛、土屋 陽子、 社河内 友里、塚田 幸光、C・J・アームストロング、細川 美 苗、矢次 綾、小林 英里、杉浦 清文、大阪教育図書、2018年
- ■『精神分析と物語』,小原文衛,松柏社,2008年
- ■『国際学への扉――異文化との共生に向けて』, 倉田徹, 粕谷雄一, 古畑徹, 小原文衛, 梶川伸一, 斎藤嘉臣, 村上清敏, 和泉邦子, 山本卓, 大藪加奈, 石黒盛久, 深澤のぞみ, 清水邦彦, 風行社, 2008年

講演・口頭発表等

- "Interopticality in JAWS and Godzilla", 国際共同研究 プロジェクト"Dark Modernity: Modernism to Film Noir from East to West", シンポジウム 2024年12月
- George A. Romero と〈西部劇のパラダイム〉――先住 民虐殺表象としての Night of the Living Dead (1968) 日本アメリカ文学会第60回全国大会シンポジウム「〈ホ ラー〉の機能──恐怖のフィクションは〈アメリカ〉の 何を表象するのか」、2021年10月
- ホラー映画の〈意味〉―ジョージ、A・ロメロ監督作品のサブテキスト、2018年度 金沢英文学会総会、2018年12月
- ゾンビ・ローカリズム/グローバリズム— George A. Romero の リヴィング・デッドと籠城のモチーフ,日本英文 学会中部支部第 68 回大会シンポジウム「The Dead Walk! ―ゾンビと映画/文学のクロスオーバー」, 2016年10月

競争的資金等の研究課題

■ 科研費(基盤研究C)採択(課題番号21K00394:研究課題名「ホラー映画の深層に抑圧された〈先住民への暴力〉の歴史の解明によるアメリカ史の革新」)2021年~2023年

中子 富貴子 教授・キャリアサポートセンター長博士(創造都市)

Fukiko Nakako

☑ fukiko.nakako@komatsu-u.ac.jp

研究 Keyword

観光学(観光社会学)、地域研究、ユニバーサルツーリズム、 観光人材育成、旅行業実務

プロフィール

2013年 大阪市立大学大学院 創造都市研究科 博士後期課程 修了

2015年 神戸山手大学 現代社会学部 観光文化学科 准教授

2018年 公立小松大学 国際文化交流学部 国際文化交流学科 准教授

2022年 公立小松大学 国際文化交流学部 国際文化交流学科 教授

研究分野

観光社会学、観光学、地域課題と観光、バリアフリーツーリズム、フードツーリズム

所属学協会

観光研究学会、日本社会学会、日本福祉のまちづくり学会、観光学術学会、日本フードツーリズム学会

専門分野·研究分野

地域観光の促進に必要な市民力、 多様な人々への視点

観光研究の視点は幅広く多様ですが、私は地域観光の促進とそれに伴う地 域の再生、地域づくりに焦点をあてています。着地型観光と呼ばれる、地域が 主体的に観光に取り組む活動の研究から始め、現在では多様な人の旅行を可 能にするバリアフリー(ユニバーサル)ツーリズムや、地域の「食」をめぐって 様々な地域産業が連携するフードツーリズム、交通・移動の課題などを研究 分野としています。

研究内容

主体的に観光に取り組む人や組織の大切さ

着地型観光やフードツーリズムでは、地域の主体性が重視されます。それ は地域の人々が自らの地域に誇りを持ち、文化を育みながら他者に地域を開 示していく作業です。そうした環境は地域そのものを強くし、人々の関係性 を協力的に推し進めるという観点からソーシャルキャピタル (社会関係資 本)のあり方が重要だと考えています。研究を通して、人々や組織の関係性の あり方を観光の現場で考え、またその結果多様な人が生活し、訪れる地域づ くりの姿を考え続けています。そのためには、地域での NPO 活動など、市民 の主体的でボランタリーな取り組みや組織同士の連携が必要と考え、複数の 組織へのヒアリングも重ねています。また、現在はバリアフリー環境が当た りまえと言われる時代になってきましたが、まだ環境整備の余地は多くあり ます。単にハード整備に終わることなく、住民や当事者も観光を担い、観光を 多様で豊かなものにするにはどうすればよいかを課題として研究を進めて います。

地域との協働

大学に赴任してから、地域の方との協働作業も進んできました。伝統工芸 産業の九谷焼の発展に観光の側面からアプローチし、学生も含めて大学がど のように貢献できるかを考えながら、プロジェクトに関わっています。

また、近年各地で課題になっている高齢 者を中心とした住民の外出時の移動手段 や交通の確保の問題は、小松市にとっても 無関係ではありません。2019年には市内の 地域団体が行う乗合ワゴン事業に協力し、 地域交通課題の解決にも取り組みました。



こまつ市民大学: 「ユニバーサルツ 図. リズム」、「食と観光」をテーマで行い



シーズ・地域連携テーマ例

- NPOとの連携、協働
- 観光地におけるバリアフリー化
- 地域課題と観光の貢献

論文

- 観光体験としての労働-「おてつたび」に見る観光と労働 の融合, 中子富貴子・山﨑陽子, 日本観光研究学会全国 大会学術論文集, 291-296, 2024
- ■「リモート」で可視化される教育的コミュニケーションの 諸局面,中子富貴子, 観光ホスピタリティ教育14, 111-121. 2021
- カナダオンタリオ州におけるフードトレイルの成功要 因,中子富貴子・李美花,日本近代學研究64,261-274, 2019

書籍等出版物

- 友原嘉彦編著『女性とツーリズム』(共著) 古今書院
- 中村元、中子富貴子共著『バリアフリー観光のためのホ テル・旅館改修計画と地域受入体制づくりマニュアル』 綜合ユニコム (2016)
- 森田洋司、中子富貴子 他(共著)『新たなる排除にどう立 ち向かうか-ソーシャル・インクルージョンの可能性と 課題』学文社 (2009)

講演・口頭発表等

- 日本福祉のまちづくり学会「震災発生直後の障害者・高 齢者に対する民間支援の役割と課題-能登半島地震支援 活動への聞き取り調査から」(2024)
- 観光学術学会「終末期における高齢者の移動 ライフコー スと移動」(2023)
- 日本福祉のまちづくり学会「コロナ禍における高齢者・ 障がい者の観光意向と意識」(2023)
- 日本フードツーリズム学会「フードトレイルにおける集積 と周遊に関する考察-石川県・能登丼を事例に-」(2022)

競争的資金等の研究課題

- デジタルネットワーク社会がもたらすユニバーサルツー リズムの排除と包摂のプロセス:日本学術振興会:科学 研究費助成事業:基盤研究(C)(一般)(2025-27年度)
- 移動前提社会における地域住民と移動者による新たなコ ミュニティの形成プロセス:日本学術振興会科学研究費 助成事業:基盤研究(B)(一般)(2022-24年度)

- 小松市「地域公共交通活性化協議会」委員(2018-)
- 小松市「小松市景観まちづくり審議会」委員(2018-)
- 小松市・能美市「クタニズム実行委員会」委員(2019-2025)
- 能美市「能美市観光戦略会議」委員(2023-2026)
- 国土交通省「観光地のバリアフリー評価の普及・促進に 関する検討委員会」委員 (2018)
- NPO法人日本バリアフリー観光推進機構事務局長 (2012-2017)

朝倉 由希 准教授 博士学術

Yuki Asakura

∀ yuki.asakura@komatsu-u.ac.jp

Keyword

芸術文化を支える仕組みのあり方、芸術文化の多様な価値と評価、 文化資源と地域づくり

プロフィール

2009年 東京藝術大学大学院 音楽研究科 応用音楽学 博士後期課程 修了

2009年 東京藝術大学アートリエゾンセンター 学術研究員

2017年 文化庁地域文化創生本部 総括・政策研究グループ 研究官

2021年 公立小松大学 国際文化交流学部 国際文化交流学科 准教授

研究分野

文化政策 / アートマネジメント

所属学協会

文化経済学会〈日本〉、日本文化政策学会、日本アートマネジメント学会、日本音楽芸術マネジメント学会

専門分野·研究分野

社会的財産としての文化

文化とは、音楽、美術といった芸術文化や、文化財、暮らしに根付いた風習 や習慣、生活文化まで、たいへん幅広いものが含まれますが、そのどれもが、 人間が創り出し、過去からつないできた社会的財産です。その価値は目に見 えにくく数値化しにくいものであるため見過ごされがちですが、例えば人々 をつなぐ、発想の源泉となる、創造性を育む、多様な価値観を認め合う土壌を 作る、独自性ある資源として地域発展に寄与するなど、多様な意義を持って おり、社会基盤として重要なものです。文化が持つ多様な価値を、真に豊かな 社会づくりに活かすための仕組みを探求しています。

研究内容

人が生きる基盤として文化をとらえ 真に豊かな社会づくりに資する文化政策を構想

文化政策の予算や仕組み、文化の役割や位置づけの違いについて、諸外国 の比較研究を行ってきました。各国で歴史や背景が違うため、単純に比較す ることは適しませんが、世界の動向を把握し、日本の状況を相対的にとらえ ることにより、より良いあり方を検討することは有効です。また、自治体の文 化に関する計画や指針作りにも携わっており、文化財や文化施設と観光につ いて提言することが増えています。近年の文化政策に関する議論では、文化 が福祉や観光、教育等へも幅広く寄与するものであり、連携を深めようとい う考え方が示されています。そのことは従来狭く認識されすぎてきた文化の 役割を広く位置付けるものではありますが、「文化が他領域に役に立つから 重要」と近視眼的にとらえるのではなく、人が生きる基盤であるという認識 を形成していくことが必要です。

自治体文化政策の理念形成や計画作り、芸術文化の支援の仕組みの構築、 文化施設のマネジメントの現場等に携わりながら、実践と有機的に結びつい た研究活動を行っています。





図1、図2.公開フォーラム 新しい文化政策の構築をめざして(2019年12月7日) 撮影:廣井駿介



シーズ・地域連携テーマ例

- 国の文化政策の動向
- 自治体の文化政策
- 文化を活かした地域づくり

論文

- ■「日本における在留外国人を対象とした文化政策の現状と 課題,閱鎮京,朝倉由希,南田明美,北海道教育大学紀要 人文科学・社会科学編72(1), pp.95-110, 2021年8月
- コロナ禍と国の文化芸術支援 一文化芸術活動の継続支援事業を中 心に一, 朝倉由希, 文化経済学18巻第1号pp.12-16, 2021年3月

書籍等出版物

- ■『はじまりのアートマネジメント新訂版』松本茂章, 高島 知佐子, 桧森隆一, 太田幸治, 志村聖子, 朝倉由希, 伊東 正示, 李知映, 長津結一郎, 武濤京子, 佐藤良子, 水曜社, 2025年
- ■『ヘリテージマネジメント:地域を変える文化遺産の活か し方』松本茂章, 中川幾郎, 南博史, 高岡伸一, 朝倉由希, 信藤勇一,高島知佐子,森屋雅幸,西村仁志,石本東生, 藤野一夫, 学芸出版社, 2022年
- ■『文化で地域をデザインする 社会の課題と文化をつなぐ 現場から-』松本茂章,土屋隆英,西村仁志,朝倉由希, 池上重弘, 高島知佐子, 川本直義, 大澤苑美, 西村和代, 長津結一郎, 森口ゆたか, 学芸出版社, 2020年

講演・口頭発表等

- 文化政策のこれからを考える 日・英・米・仏・独・韓 の文化政策の国際比較から-, 朝倉 由希, 菅野 幸子, 作 田 知樹, 秋野 有紀, 長嶋 由紀子, 閔 鎭京, 日本文化政 策学会第17回年次研究大会, 2024年3月
- A Comparative Study of Cultural Policies of Six Countries during the COVID-19 Period (コロナ禍にお ける6か国の文化政策の国際比較研究), 朝倉由希, 秋野 有紀, 12th International Conference on Cultural Policy Research (University of Antwerp), 2022年9月
- 在留外国人のための文化政策 日本の現状,朝倉由希,九州 大学アジアウィーク2021「在留外国人のための文化政策と 都市一日本およびアジア諸国の事例比較から」, 2021年10月
- 在留外国人を対象とした文化政策の現状と課題, 朝倉由希, 閔鎮 京,南田明美,日本文化政策学会第14回研究大会,2021年3月

競争的資金等の研究課題

■ 地方自治体文化政策におけるエコシステム形成に向けた 検討 (代表), 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研 究(C), 2022年4月-2025年3月

- 文化庁 文化芸術推進基本計画(第2期) 指標検討のため の有識者会議委員(2023年度)
- 福井県 文化振興プラン策定委員(委員長)(2023年度)
- 福井市 文化財保存活用地域計画策定委員(委員長)(2023
- 文化経済学会<日本>理事長(2024年-)
- 日本文化政策学会 理事(2019年-)

清 剛治

Takeharu Kiyoshi

⊠ takeharu.kiyoshi@komatsu-u.ac.jp

研究 Keyword

トランスディシプリナリー, イノベーション, リージョン, グローバル, テクノロジー, エコシステム, Q/Qヘリックス

プロフィール

2006年 米マサチューセッツ大学 地域経済・社会開発研究科 (RESD) ラゾニックラボ

2008年 国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究調査センター

2013年 国立大学法人金沢大学 大学教育開発・支援センタ

2016年 独立行政法人国立高等専門学校機構富山高等専門学校 国際ビジネス学科/専攻科

キングモンクット工科大学 管理経営学部(兼任・現地赴任) 2019年 2022年 公立小松大学 国際文化交流学部 国際文化交流学科 准教授 2025年 公立小松大学 国際文化交流学部 国際文化交流学科 教授

研究分野

Regional Innovation System

所属学協会

公益事業学会,研究・イノベーション学会

専門分野·研究分野

地域社会・産業システムの競争優位性

地方における地域経済社会の内発的な形での発展は、グローバルに普遍的 な課題です。多くの地方地域は、地域課題の解決を地方公共政策にゆだねる にとどまり、プロダクト的なイノベーションの創出にはつながっていませ ん。内発的な地方経済の発展がなかなか実現できないという地域課題は、日 本の根幹的な全体課題であるといえます。現在注力している研究領域は、こ のような地方地域の課題解決に資する、"新産業を生み出す地域社会システ ム, を実現すべく産学官ネットワークに着目し、そのための共創の在り方に 言及するものです。ここでの共創とは、研究・開発~製品化・事業確立・産業化 に係る一連の技術連携・共創活動を指しています。

他方、近年顕著である地方地域の衰退等といった社会的課題に対処すべ く、社会科学領域の大学機能(教育・研究)をより活用した地域社会貢献への、 自律的に機能する組織的取り組みが求められていると感じています。これま での科学技術を基盤とした産学官による技術連携・共創活動に加え、新たに 社会科学領域の学術知を活用した、社会イノベーション創出を実現する産学 官共創の可能性についての議論が求められます。社会科学領域の学術研究が 現実に応え得るには、支柱としての体系的学術理論のバックボーンが基盤と して必要ですが、実際の地域社会・産業システムの競争優位性につなげるに は、現況や課題について正しく把握することが大切であり、そのために地域 社会や産業界と密接に共創していく必要があります。

研究内容

地域社会におけるイノベーション創出を実現するために

公立小松大学が立地する地域社会は、多くのモノつくり企業が集積する産 業地域です。地方創生へ、"新産業を生み出す地域社会システム"の創造を通 じて、グローバル社会においていかにローカルな競争優位を成すかを市場経 済の視角から多面的に考え、どのように地方地域社会の創成・再生へつなげ ていけるかについて考えていくことは極めて重要であると認識しています。

例えば大学は、教育と研究という伝統的な役割を維持しつつ、知識の資本 化へ、特許権活用、スタートアップ企業の設立に力を注ぐ動線も加わって久 しいですが、近年の地域社会創生に係る理論的枠組みは、産学官に加え、市民 社会、自然環境も取り入れたエコシステムとして捉え思考していく傾向がみ られます。それは、地域社会においてイノベーションをどのように創出して いくのかを考えることに留まらず、我々が社会生活を営む経済地域の視角か ら、国際化に対峙せざるを得ない日本人が意識すべき、グローバルーローカ ルの関連性を認識・理解することにもつながっているといえるものです。

シーズ・地域連携テーマ例

- 地域社会・産業システムに関連する諸課題について
- 企業経営に係る諸課題について
- 産業界における人材の育成について

受賞

• "Best Presentation Award" as Session I: Multi-Dimentional Research on Social, Economic, and Policy Development, ICHSS 2025.

論文

[Survey] Elements of a Commercialization-Friendly Region: Analysis of South-Kaga Industrial Region, T.Kiyoshi, Intercultural Studies, Vol.7, pp.43-50, 2025.

書籍等出版物

- ■『新産業を生み出す地域社会システム 産学官によるイ ノベーションの共創』清剛治, 中央経済社, 2020 (ISBN: 9784502345715).
- "Educational System Innovation for Regional Economic and Social Development - Revitalization in Lowell, Massachusetts -,, T. Kiyoshi, Hirosaki University Press, 2016 (ISBN: 9784907192334).

講演・□頭発表等

Understanding the Elements Needed to Transform a Region into a Business Creation Friendly One: Regional Innovation System for Endogenous Development, T.Kiyoshi, 2025 11th International Conference on Humanity and Social Sciences.

競争的資金等の研究課題

■ 研究代表者『地方創成に資する産学官連携システムの研究』 JSPS科研費16K04031基盤研究(c), 2016年~2018年度

- Editorial Board Member, Journal of Management and Training for Industries (2025 -).
- Technical Program Committee, International Conference on Humanity and Social Science (2024 - 2025).

木村 誠 准教授 博士(学術

博士(学術)·公認心理師

Makoto Kimura

⊠ makoto.kimura@komatsu-u.ac.jp

研究 Keyword

実験心理学、臨床心理学

プロフィール

2005年 仁愛大学 人間学部心理学科 助手

2014年 小松短期大学 地域創造学科 准教授

2015年 金沢大学大学院 人間社会環境研究科 客員研究員

2018年 金沢大学 環日本海域環境研究センター 外来研究員(現在に至る) 2019年 公立小松大学 国際文化交流学部 国際文化交流学科 准教授(現在に至る)

2024年 金沢大学 環日本海域環境研究センター 共同研究員(現在に至る)

研究分野

心理学 / 実験心理学

所属学協会

日本学生相談学会、日本心理学会、日本動物心理学会、北陸心理学会、日本教育心理学会

専門分野·研究分野

心の測定・環境適応と行動の変容

多様な人間を正確に理解するためには、目に見えない心の働きを正確に測定し、数値化することが欠かせません。私は現在、パーソナリティを多面的に測定する心理検査の開発・研究に従事しています。直接観察できない心の特徴を数値化する方法を構築することで、教育現場、医療現場、司法、人事などの領域への活用と貢献を目指しています。また、長く学生相談業務、海外留学支援の業務に従事した経験から、新しい環境への適応と行動の変容の問題に関心を抱き続けています。近年ではカンボジアのアンコール世界遺産地域の村落の住民と大学生を研究対象として、環境の変化に伴う心の問題について実践的な研究に取り組んでいます。

研究内容

環境適応の心理的課題と個性の定量化

1. パーソナリティを測定する心理検査の開発と研究

MMPI (Minnesota Multiphasic Personality Inventory) は、精神医学的診断に客観的な手段を提供する目的で 1943 年に刊行された心理検査であり、現在はパーソナリティ検査を主な目的として心理臨床での現場でも広く使用されている代表的な心理検査の一つです。私は、2020 年に米国で開発された MMPI の最新版、MMPI-3 の日本版の開発チームのメンバーとしてMMPI-3 日本版の開発・研究に従事しました。本検査は、診断補助に資する心理検査として国内の医療機関で活用されるだけでなく、司法の場面や人事採用場面での活用も期待されています。本検査の更なる研究と、普及のための活動に積極的に取り組んでいます。

2. 生活環境の変化に伴う心理的適応の問題

急速な観光地化が進むカンボジア王国のアンコール世界遺産区域には、現在

も約13万人の地域住民が生活しています。私は、観光開発に伴う生活環境の変化がもたらす地域住民の心理的適応の課題を研究しています。具体的には観光地化に伴う新たな人的交流、外部からの情報の流入、生活水準の変化に注目しています。また、地域住民と観光客の共生の視点から、政府機関と連携したアンコールワット寺院のアクセシビリティ整備に関する研究にも従事しました。さらに、学生相談と留学支援に従事した経験から、留学生や大学新入生を対象とした留学先や大学への適応を促進するための効果的な教育プログラムについても研究しています。



図. カンボジア・アンコール ワット寺院でのフィー ルド調査



シーズ・地域連携テーマ例

- 新しい行動の形成、行動の修正技法に関する研究・研修
- 行動の変化に関する心理調査

受賞

- 2016年1月 第17回石川県バリアフリー社会推進賞活動部 門最優秀賞(受賞:バリアフリーマップ+制作委員会)
- 2013年 北陸心理学会奨励賞

論文

- 国際交流事業における集団構造の特徴が参加学生の現地で の行動および心理状態に及ぼす影響 木村誠,ハンプゥ, 塚脇真二,大学教育学会誌,43(2),80-88,2021.
- Accessibility of World Heritage Site -A survey of physical accessibility of Angkor Wat temple, Cambodia Makoto Kimura, Peou Hang, Shinji Tsukawaki, Journal of Global Tourism Research, 6(2), 121-126, 2021. など

書籍等出版物

- MMPI-3日本版 鋤柄増根、木村誠 他,株式会社三京房, 2022年
- MMPI-3日本版マニュアル 鋤柄増根、木村誠 他,株式 会社三京房,2022年 など

講演・口頭発表等

- Research on psychological benefits of the natural environment: Effects on restoration, stress tolerance and mood states. Kimura, M., The 8th International Thematic Symposium "Environment and the Sustainable Development of Rural and Urban Societies in East Asia" 2024年3月15日.
- Evaluation of accessibility of Angkor Wat temple and influence of rapid conversion to a tourist destination on the well-being of local residents, Kimura, M., Research Seminar at the National University of Management on Recent Changes in Cambodia Recognised and Investigated by Overseas Researchers. 2023年3月17日.
- 自生種と植栽種の違いが植物の印象に与える影響 木村 誠・塚脇真二・本田匡人、日本心理学会第86回大会、 2022年9月10日 など

競争的資金等の研究課題

■ 自然環境が喚起するノスタルジアが心理的健康に与える 影響 一木場潟の水辺環境をモデルとして一 金沢大学 環日本海域環境研究センター共同研究費 研究期間: 2024-2025 など

- 小松市共同参画プラン審議会委員
- 日本赤十字社 石川県学生献血推進アドバイザー
- 小松市障害者自立支援協議会 運営委員
- こまつ女性の活躍とワーク・ライフ・バランスを考える 協議会 座長 など

Chin-Kuang Chen

⊠ chen.chinkuang@komatsu-u.ac.jp

研究 Keyword スポーツイベント、観光DX、価値共創、ソーシャルメディア、 ネットノグラフィー調査

プロフィール

2019年 立教大学大学院 観光学研究科 博士課程後期課程 修了 2020年 長崎国際大学 人間社会学部 国際観光学科 講師

2024年 公立小松大学 国際文化交流学部 国際文化交流学科 准教授

研究分野

観光学、スポーツツーリズム、スマートツーリズム

所属学協会

日本観光研究学会、観光学術学会、日本スポーツマネジメント学会、ランニング学会、

日本観光経営学会

専門分野·研究分野

スポーツ・観光・ICTの融合で生まれる価値

スポーツと観光が結合したスポーツツーリズムとは、「スポーツやスポー ツイベントへの参加・観戦・応援を目的として旅行し、少なくとも 24 時間以 上その目的地に滞在すること」とされ、スポーツを主な目的とした旅行を意 味している。また、スマートツーリズムとは、IT 機器を介して旅行者が観光 地の観光関連情報やサービスを共有する総合的なアプローチであり、ICT 技 術を融合した新たな観光形態として注目されている。私の研究では、ICT が スポーツツーリズムにおける価値共創に与えた影響の分析を通して、スポー ツ・観光・ICTの相互作用を考察していく。

研究内容

スポーツツーリズムにおけるSNSの活用とその役割の変化

1. スポーツツーリズムによる地域活性化

スポーツツーリズムは地域に魅力的なイメージを与え、観光客や企業、住 民を惹き付ける素材としての恩恵をもたらす可能性に満ちている。インバウ ント誘致や地域活性化イベントとして特色のあるスポーツイベントを研究 対象に、主催者と各ステークホルダー、参加者などの視点から、各アクターの 相互作用によって作り出される価値と、その価値共創メカニズムを解明する ことを目的にしている。

2. スポーツツーリズムにおけるICT技術の活用と役割

コロナ禍後の「新しい観光様式 | といった観点が示すように、観光そのもの が大きく変わろうとしている。スポーツツーリズムにも、ICT 技術を活用し た対策が講じられ、物理的な移動を伴わない様式へと拡大してきた。その変 化に伴って、SNS は情報交換の場だけではなく、観光者のアイデンティティ 獲得と維持の重要な媒体として役割を拡張している。私の研究はスポーツ ツーリズムに着目し、ネットノグラフィー調査を用いてソーシャルメディア における価値共創メカニズムを解明していく。



写真 1. 東北風土マラソンでの現地調査



写真2. 2023 Council for Australasian Tourism and Hospitality Education (CAUTHE) Conference IZT



シーズ・地域連携テーマ例

- スポーツツーリズムを通じた地域振興・地域活性化
- ソーシャルメディア分析
- インバウンドプロモーション

- 2020年5月 日本観光研究学会 論文奨励賞
- 2023年3月 International Conference on Tourism Sciences (ICTS) Best Presentation Award

- An exploratory study of designing value co-creation in international sport tourism: Insights from a regional revitalizing marathon in Japan, Chin-Kuang Chen, Japan Tourism Management Review, 4, 39-56, 2024年3月
- Value co-creation in sport tourism: the practices of international participants in a tourism running event, Chin-Kuang Chen, Journal of Sport & Tourism, 27(2), 139-159, 2023年3月
- How three Japanese city marathon brands overcame double jeopardy, Frank Go, Chin-Kuang Chen, & Remco Beek, Asian Sport Management Review, 11, 89-122, 2016年8月

書籍等出版物

■ スポーツ文化論, 高橋徹編, 担当部分:第13章スポーツ ツーリズム, 株式会社みらい, 2022年4月

講演・口頭発表等

- Exploring the Roles of Community-Based Guided Tours in Indigenous Tourism: A Study of the Paiwan Malijeveq Festival in Taiwan, Chin-Kuang Chen, The 35th Annual Council for Australasian Tourism and Hospitality Education (CAUTHE) Conference, 2025年2月12日
- Sport Tourists' Social Media Use for Coping with Cultural Differences: LINE App Usage by Taiwanese Marathon Runners Aiming to Complete the Six Star Journey, Chin-Kuang Chen, The 30th Annual Sport Management Association of Australia and New Zealand (SMAANZ) Conference, 2024年12月4日
- Intercultural learning in domestic study tours designed for international students: A value cocreation perspective, Chin-Kuang Chen, Travel and Tourism Research Association (TTRA) Asia Pacific Chapter Annual Conference, 2023年12月2日
- International sport tourists' value co-creation through social media: A mixed-methods netnography approach, Chin-Kuang Chen, The 31st European Association for Sport Management (EASM) Conference, 2023年9月13日

競争的資金等の研究課題

- 訪日外国人スポーツツーリストの意識変化と行動変容に 関する実証研究, 日本学術振興会, 科学研究費助成事業, 2024年4月~2026年3月
- スマート・ツーリズムの構造とメカニズムに関する観光 学的研究, 立教大学, 立教大学学術推進特別重点資金, 2022年6月~2024年3月

社会貢献活動

■ 山形県スポーツツーリズム可能性調査事業・顧問 (2017年)

西島 薫 講師 博士(地域研究)

Kaoru Nishijima

⊠ kaoru.nishijima@komatsu-u.ac.jp

研究 Keyword

地域研究、政治人類学、インドネシア研究

プロフィール

2012年 大阪大学外国語学部国際文化学科 卒業

2018年 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 博士一貫課程 修了

2018年-2022年 京都大学学際融合教育研究推進センター 特定助教

2022年 公立小松大学 国際文化交流学部 国際文化交流学科 講師

研究分野

地域研究、文化人類学·民俗学、政治人類学

所属学協会

東南アジア学会、日本文化人類学会、日本インドネシア学会、アメリカ政治学会、国際政治学会

民主化と今日の王権の位相

専門分野·研究分野

「地域」を理解すること

ひとくちに「地域」といっても様々に分類することができる。東南アジア地域においても、平地と山地、沿岸部と後背地、都市部と村落部など様々な「地域」の分類がある。これらの「地域」にはそれぞれ固有の文化や歴史がある。地域研究では「地域」の固有性を理解するために、人類学、歴史学、政治学、経済学など様々なアプローチが用いられる。これまでの研究では、インドネシア・カリマンタンの後背地を調査地として、「地域」に暮らす人々と生活をともにしたり、法律や行政文書を調べたり、歴史史料を渉猟したりしてきた。様々な研究分野の蓄積やアプローチを横断的に参照しながら、「地域」固有の特性を解明し、その「地域」に暮らす人々を理解することが研究の目的である。

研究内容

民主化と王権の復興

冷戦の終結とともに、アフリカや東南アジアでは独裁体制が次々と崩壊した。インドネシアでは、1998年に約32年間続いたスハルト権威主義体制が崩壊し、民主化の時代を迎えた。中央政府が掌握していた権限が地方政府に移譲され、民主化が一気に推し進められた。民主化期インドネシアでは、地方各地の王や貴族たちが次々と復活している。カリマンタンの後背地に暮らすダヤック人たちの「王」の復活を事例に、民主化期における慣習的権威の台頭を研究してきた。王たちの復活には、民主化だけではなく、国家による後背地の森林開発、後背地に暮らす先住民の周縁化の歴史、国際的な先住民運動など様々な要因が関係している。研究の目的は、民主化と地域社会における王たちの復活という、一見相反するかのように見える現象を理解することである。

シーズ・地域連携テーマ例

- 東南アジア地域の社会
- 近代化と慣習
- 民主化と地域社会

論文

- ダヤック人祭司王「復活」の歴史的経緯-南西カリマン タンにおけるウルアイ王の事例にもとづいた考察-. ア ジア・アフリカ地域研究 21 (1) 36-66. 2021年9月
- 神器が織りなす政体. 一西部カリマンタンのダヤック人 王権の事例から一. 東南アジア研究 57 (2) 109-135. 2020年1月.

講演・口頭発表等

- ダヤック人エリートの形成過程 西カリマンタン州・クタパン県の事例から、第50回日本インドネシア学会大会、2019年11月
- 神聖王のポリティクス:西部カリマンタンのダヤック 人王権の事例から、日本文化人類学会第53回研究大会、 2019年6月
- 在来政体と親族集団の不整合性に関する考察:西部カリマンタンのダヤック人王権を事例に、東南アジア学会第100回研究大会、2018年12月

競争的資金等の研究課題

■「民主化期インドネシアの地方王権ネットワークに関する 人類学的研究」若手研究(代表)2019年-2021年、「グッド・ガバナンス論再考のためのインドネシア地域研究: ビッグデータ分析の試み」国際共同研究加速基金(分担) 2019年-2022年



写真 1. 調査地での儀礼の様子



写真 2. 焼畑での収穫の様子

望月葵講師博士(地域研究)

Aoi Mochizuki

⊠ aoi.mochizuki@komatsu-u.ac.jp

研究 Keyword

中東地域研究、政治学、難民研究、イスラーム世界論

プロフィール

2022年 京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程(五年一貫制) 修了

2022年 立命館大学 立命館アジア・日本研究機構 専門研究員

2023年 日本学術振興会 特別研究員

2024年 公立小松大学 国際文化交流学部 国際文化交流学科 講師

研究分野

中東地域研究、政治学、難民研究

所属学協会

日本中東学会、日本国際政治学会、移民政策学会

専門分野·研究分野

中東地域から世界を展望する

2001年の9.11同時多発テロ事件、イラク戦争、「アラブの春」とその後のシリア内戦の発生、そしてガザ・イスラエル紛争など、中東地域は21世紀の国際社会に多大な影響を及ぼし続けてきた。イスラーム過激派の存在や度重なる紛争、イスラモフォビアの高まりなど、これらは決して中東地域だけにとどまる問題ではない。特に、政治情勢の不安定化、経済状況の悪化は中東からの国内避難民や難民の流出を招いており、国際社会にとって解決するべき大きな課題となっている。現地でのフィールド調査をもとに、地域研究、政治学、難民研究などの様々な研究アプローチを組み合わせて中東の抱える政治・経済の諸問題を分析することで、国際社会の実相をより多角的・多面的に明らかにすることをめざしている。

研究内容

グローバル課題としてのシリア難民問題

シリア内戦が 2011 年に勃発した結果、多くのシリア難民が世界中に離散する結果となった。2023 年時点で、約630万人以上のシリア難民と720万人以上の国内避難民が発生しており、これはシリア国民の半数以上が故郷を追われていることを意味する。シリア周辺国のみならず、ヨーロッパなどの国々にも多くのシリア難民が逃れたことで、シリア難民問題は国際社会全体の「難民危機」として注目を集めてきた。シリア難民たちは今なお避難生活を余儀なくされており、受入社会が彼らをどのように包摂または統合していくのか、ということが国際社会の喫緊の課題となっている。シリア難民が受入社会で直面する文化や言語の差異をどのように受け止めて、どのように乗り越えているのか、彼らの生存基盤の再構築過程を明らかにすることが課題である。



シーズ・地域連携テーマ例

- 中東地域の政治問題
- 日本の多文化共生社会
- ムスリムと受入社会

論文

■「欧州難民危機以降の国民国家体制のレジリエンス―― 西欧諸国におけるシリア難民に対する移民・難民政策の ゆらぎ」、望月葵、イスラーム地域研究、14、228-244、 2021.

書籍等出版物

■『グローバル課題としての難民再定住:異国にわたったシリア難民の帰属と生存基盤から考える』、望月葵、ナカニシヤ出版、2023.

講演・口頭発表等

- ■「欧州の移民・難民コミュニティの存立基盤とシリア難民 問題」、望月葵、日本中東学会第38回年次大会、2022年5 日15日
- "Will Japan Contribute to Syrian Refugees' Resettlement? Reflections on Japan's Middle East Policies and Refugee Acceptance," Mochizuki Aoi, BRISMES 2023 Conference, July 4th, 2023.
- "Prospects for Inclusion of Immigrants and Refugees: The Case of Japan with Special Consideration of its "Cultural Coexistence"," Aoi Mochizuki, The Migration Conference 2023, August 24th, 2023.
- ■「難民のセキュリタイゼーション:地中海域・中東をめぐる国境管理と『域外地域』構築の動向」,望月葵,日本国際政治学会2023年研究大会,2023年11月11日.

競争的資金等の研究課題

■「ポスト・コロナ期の多文化共生の課題と難民・避難民の 再定住:離散シリア難民を事例に」,日本学術振興会,研 究活動スタート支援,2022年8月-2024年3月.



写真 1. ヨルダン首都アンマンの様子



写真2. キング・アブドゥッラー・モスク(ヨルダン)

西村 聡 教授·附属図書館長

Satoshi Nishimura

⊠ satoshi.nishimura@komatsu-u.ac.jp

Keyword

日本古典文学、能楽史、世阿弥、加賀藩、宝生九郎、泉鏡花

プロフィール

1979年 金沢大学大学院 文学研究科修士課程 修了

1983年 金沢大学 文学部 文学科 専任講師

1988年 金沢大学 文学部 文学科 助教授

2002年 金沢大学 文学部 文学科(2008年から人間社会研究域) 教授

2020年 公立小松大学 国際文化交流学部 国際文化交流学科 教授

研究分野

日本文学·能楽

所属学協会

中世文学会、能楽学会、楽劇学会、芸能史研究会

専門分野·研究分野

文学研究の基本は、

「書いてあることを読み、書いていないことを読まない」こと 『源氏物語』夕顔巻で夕顔を取り殺したのは某の院に棲む物・鬼です。とこ ろが多くの人は六条御息所の生霊であると決めつけています。六条御息所は 夕顔の存在を知らないにもかかわらず、後に葵上を殺す罪を犯したため、読 者には先入観による類推が働くようです。これを1例として、古典学の歴史 においては様々な読み違えが発生します。その時代の読みの限界のなかで、 新たな「古典」が創造される場合も少なくありません。また、どれだけ膨大な 先行研究の蓄積があっても、作品の核心に近づく努力は、新しい研究成果を もたらします。私は世阿弥の能や泉鏡花の小説を対象に、書いてあるとおり に読む努力を続けています。

研究内容

作品の読解を中心とする広義の能楽史研究

- 1. 中世文学の作品研究: 能の地謡は地の文ではなくシテの言葉であること、 シテの言葉は自分本位に物語を再構成し、アイの語りはシテの登場を促す ために浅く遠い語りにとどまること、夢幻能は《美しい幽霊》と《生の物語》 によって「古典」となったこと、など。
- 2. 加賀藩及び大聖寺藩の能楽史研究:藩主はシテを演ずる快感のとりことな ること、御手役者・町役者・御細工者の系譜、加賀藩における謡曲研究、大聖 寺藩の演能記録など。
- 3. 近現代能楽史の地方展開に関する研究:明治を代表する名人宝生九郎の伝 記考証、泉鏡花の作品と能楽の関係、金沢能楽会の百年史、和泉流狂言史の 比較研究(金沢と名古屋)、旧大聖寺藩主前田利鬯の活動、明治の歌舞伎出 版物など。



図. 「和泉流狂言の伝承-金沢と名古屋-」講演(石川県立能楽堂、2010年)



シーズ・地域連携テーマ例

■ 日本古典文学、伝統芸能、加賀・能登

■ 2001年12月 第23回観世寿夫記念法政大学能楽賞

論文

- 「大聖寺藩前期の能楽」, 国際文化7号, 3-16, 2025
- ■「地謡「地の文」説再考」, 能と狂言20号, 55-70, 2022
- 「明治12年における歌舞伎〈勧進帳〉の上演と『歌舞伎 十八番之内勧進帳全』の板行(上)(下)」,国際文化4号, 61-75, 2022, 同5号, 11-31, 2023
- ■「アイの語りの分際(下)一後シテの語りと比較して一」, 金沢大学歴史言語文化学系論集, 12号, 1-14, 2020
- ■「アイの語りの分際(上)一前シテの語りと比較して一」。 金沢大学歴史言語文化学系論集, 11号, 33-48, 2019
- ■「御用達宝生九郎の誕生一能楽「再興」期年譜考証の更 新一」, 金沢大学歴史言語文化学系論集, 10号, 1-16, 2018
- ■「『照葉狂言』を語る未来― ―座を越えて行く身体―」, 金 沢大学歴史言語文化学系論集,9号,1-16,2017

書籍等出版物

- ■『対訳でたのしむ花筐』檜書店, 2024
- ■『能楽資料叢書8間狂言資料集成』, 共編 (研究代表), 法 政大学能楽研究所, 2024年
- ■『怪異を読む・書く』, 共著, 国書刊行会, 2018年
- ■『文学 海を渡る 〈越境と変容〉の新展開』,共著,三弥井 書店, 2016年

講演・口頭発表等

- ■「地謡「地の文」説再考」,能楽学会大会,2020年3月12日
- ■「ワキの夢とアイの語り一〈芭蕉〉論から見え始めたこと 一」, 日本比較文学会関西支部大会, 2017年11月4日

競争的資金等の研究課題

- ■「近代能楽史の展開と旧大聖寺藩主前田利鬯の活動」,代 表,科学研究費補助金 (基盤C), 2024-2026
- 「明治の能楽復興における華族の役割」, 代表, 科学研究 費補助金 (基盤C). 2017-2020
- ■「間狂言資料集成の作成とアイ語りを視点とする夢幻能の 再検討」,代表,能楽の国際・学術的研究拠点研究プロジェ クト (法政大学能楽研究所), 2017-2020
- ■「加賀藩を事例とする近世能楽史の地方展開についての研 究」, 代表, 科学研究費補助金 (基盤C), 2014-2016
- ■「近代宝生流能楽史の地方展開」,代表,科学研究費補助 金 (基盤C), 2011-2013

- 公益財団法人金沢芸術創造財団評議員(2006-現在)
- 加賀市能のまち推進協議会会長(2022 現在)

長辻 幸 准教授 博士(文学)

Miyuki Nagatsuji

⊠ miyuki.nagatsuji@komatsu-u.ac.jp

研究 Keyword

日英対照、語用論、節等位接続

プロフィール

2013年 奈良女子大学 大学院人間文化研究科 博士後期課程 単位取得満期退学

2013年 奈良女子大学 研究院人文科学系 言語文化学領域 助教

2018年 博士(文学·奈良女子大学)

2018年 公立小松大学 国際文化交流学部 国際文化交流学科 助教 2021年 公立小松大学 国際文化交流学部 国際文化交流学科 准教授

研究分野

英語学·言語学

所属学協会

日本英語学会、日本言語学会、日本語用論学会、関西言語学会、

The International Pragmatics Association

専門分野·研究分野

発話解釈において、言語形式は推論のための 「手がかり」にすぎない

ことばは、私たちのコミュニケーションに重要な役割を果たしています。しかし、ことばによるコミュニケーションも、使用されている言語形式によってのみ成立するわけではありません。例えば、ある人と仲が良いのかどうか尋ねられた話し手が、"We still keep in touch, and we sometimes go out for a meal." と返答したとき、質問には直接答えていませんが、彼らは数年来の友人だと解釈されます。つまり、話し手が実際に発話している文の意味と伝達しようとしている意味の間には隔たりがあり、聞き手はそれを推論によって埋めなければなりません。聞き手が話し手の意味をどのように理解するのか、コミュニケーションにおける言語形式と推論の相互作用について明らかにしようと取り組んでいます。

研究内容

日英対照により節等位接続の解釈を 通言語的に説明する

上述の例のような英語の and 連言文は、and で連結された節間の様々な関係を伝達します。しかし、その関係は and そのものの意味ではなく、推論によって語用論的に引き出されます。一方、日本語には and 連言文に対応する節連結構造が複数あります。例えば、「知事は無法なカラスに頭にきて、カラスを撃退するためのプロジェクトチームを発足させた」のようなテ形構造、「父と娘は、一緒に散歩したり、土曜日には昼食を食べに行ったりした」のようなタリ構造、「コイやカブトエビは、水温が高いと働かないし、水がなくなったら死んでしまう」のようなシ構造などです。これらの構造によって得られる解釈は微妙ながらも異なり、その使用にはある種の制約があります。言い換えれば、日本語の節等位接続体系は、英語で区別されない側面に敏感に反応し、それを言語的に区別しているということです。日本語の分析から英語を見なおすことで、英語の観察だけからでは必ずしもわかりえなかった特徴を明らかにできる場合があります。日英対照研究により、節等位接続を通言語的に説明する解釈メカニズムを解明し、さらには、英語の and が固有に持つ言語的意味を規定しようと試みています。



図. アメリカ語用論学会第2回大会にて



シーズ・地域連携テーマ例

- 発話解釈における節接続構造の日英対照研究
- 語用論的要因を考慮した英語/日本語教育への応用

受賞

■ 2022年度日本英語学会賞 (著書), 2022年11月

論文

- 日本語の接続助詞シにコード化される意味, 長辻幸, *KLS* 32, 206-217, 関西言語学会, 2012
- Japanese Clausal Coordination and Inferential Processing Units, Nagatsuji, Miyuki, JELS 31, 359-365, the English Linguistic Society of Japan, 2014
- Japanese Clausal Coordination and Exemplification, Nagatsuji, Miyuki, Annual Reports of Graduate School of Humanities and Sciences 32, 1-10, Graduate School of Humanities and Sciences, Nara Women's University, 2017
- A Dichotomous Comprehension Model of Clausal Conjunctions, Nagatsuji, Miyuki, *Intercultural Studies* 45-58, Faculty of Intercultural Communication, Komatsu University, 2020

書籍等出版物

- 長辻幸「日本語の等位的節接続構造 一発話解釈と推論 処理単位一」益岡隆志・大島資生・橋本修・堀江薫・前 田直子・丸山岳彦(編)『日本語複文構文の研究』, 469-493, ひつじ書房, 2014
- Nagatsuji, Miyuki *The Pragmatics of Clausal Conjunction*, Hituzi Syobo, 2021(令和2年度科学研究費助成事業(研究成果公開促進費)刊行物)
- 長辻幸「日英語の節連言文の語用論的分類」須賀あゆみ・ 山本尚子・長辻幸・盛田有貴(編)『人はどのようにこ とばを使用するのか一意味・語用論からその応用まで』 267-285,ひつじ書房,2025

講演・口頭発表等

- Nagatsuji, Miyuki "Unified vs. Dichotomous Accounts of Clausal Coordination," The 2nd Conference of the American Pragmatics Association, University of California, Los Angeles, 2014
- 長辻幸「日英語の節連言文の語用論的分類」関西言語学会 第46回大会招待発表, Zoomによるオンライン開催, 2021
- 長辻幸「連言文の推論特性と逸脱」日本語用論学会第27 回大会ワークショップ「デフォルトからの逸脱一動的語 用論から」(オーガナイザー田中廣明)、大阪大学、2024

競争的資金等の研究課題

■「節連言文のデフォルト的推論特性と逸脱に関する動的語 用論的研究」(代表) 日本学術振興会科学研究費助成事業 (若手研究), 2025-2027年度

社会貢献活動

■ 小松市明るい選挙推進協議会委員(2018年度)

島内 俊彦

Toshihiko Shimauchi

⊠ toshihiko.shimauchi@komatsu-u.ac.jp

Keyword

第二言語習得(SLA)、英語教育、多言語社会、教育工学

プロフィール

2008年 小松短期大学地域創造学科 講師

2013年 小松短期大学地域創造学科 准教授

2019年 金沢大学自然科学研究科電子情報科学専攻 博士後期課程修了 2020年 公立小松大学国際文化交流学部国際文化交流学科 准教授 2023年 公立小松大学国際文化交流学部国際文化交流学科 教授

研究分野

外国語教育/第二言語取得論、異文化理解

知能情報学 / 自然言語処理、データマイニング

大学英語教育学会、日本リメディアル教育学会、日本外国語教育推進機構

専門分野·研究分野

第二言語習得論に基づく、

効果的な英語学習法・教育法の研究

人が言葉を覚えるプロセスを言語習得といいます。母語は第一言語であ り、母語以外は第二言語と呼ばれます。英語学習をより大きな枠組みに基づ き学習者の視点から捉えると、第二言語習得と再定義ができます。多くの移 民を受け入れている米国では、新たな市民に対する言語教育に関し、かなり 以前から体系的な研究が蓄積されております。現在、この理論的枠組みにも とづいて、日本の学習者にとって効果的な英語学習法・教育法に関する研究 を行っています。

研究内容

英語学習支援、多言語社会、大学改革

1. 英語学習支援のための教材開発・研究

ひとが母語以外の言葉を覚えていくには、言語構造の違いなどから母語の 学習手法を応用できない場合が考えられます。それに加えて日本のように外国 語が必須とは言えない生活環境の中にいる学習者にとり、外国語学習には大き な困難がつきまといます。学校教育での工夫が行われていても、時間数の制約 を踏まえると、学校以外での学習が重要であるのは論を待ちません。自分の力 に適した教材を学習者が自ら探すことで、学習意欲が高まると考えられます。 機械学習手法を用いた英文難易度推定を通じた学習者の主体的教材選択の支 援やICT技術を活用した教材開発が、現在の研究の柱の1つとなっています。 2. 多言語社会の研究

2008年度以降、ルクセンブルクとの交流事業に関与する中で、母語のルク センブルク語に加え、ドイツ語、フランス語が公用語となっている同国の多 言語主義に刺激を受けました。現在、自らもロマンス諸語(仏、西、伊)および ドイツ語の学習を続け、その言語学習課程で自ら体験したいくつものつまず きを英語教育に反映させています。学習者に対する教育支援の質を向上させ るよう、実践面ならびに研究面での取り組みを進めています。

3. 大学改革に関する研究

技術革新の飛躍的な加速化、温暖化などの地球的課題の深刻化などによ り、将来の予測が困難な時代・状況を表す VUCA (Volatility, Uncertainty, Complexity, Ambiguity) という言葉が近年、メディアに現れるようになりま した。学校教育の場においても、このような変化を受けてさまざまな改革が 進められています。大学においても、従来以上の学生の主体性を促す教育体 系や教育手法の模索と実践が進められています。

とくに大学における国際競争が従来以上に激化する中、より学生のもつ潜 在的な能力を引き出す仕組みが重視されています。歴史的、国際的な視座か ら、大学改革の理論的・実践的研究に取り組んでいます。



シーズ・地域連携テーマ例

- 英語学習手法に関するアドバイス
- Google Appsを利用した簡易オンライン学習サイトの構築
- ルクセンブルクに関する講演

受賞

■ 2017.12 総務省北陸総合通信局・北陸情報通信協議会, 第4回「G空間×ICT北陸まちづくりトライアルコンクー ル」(北陸総合通信局長賞受賞)

論文

- Renewed focus on cycling: Cycling promotion policies in Luxembourg, T. Shimauchi, JGTR 6(2), pp.163-168.
- TOEIC L&Rスコアの分析: 今後の語学教育への含意, 島 内俊彦, 国際文化, 3号, pp.13-25
- Luxembourg tram system: catenary-free hybrid technology to reduce visual damage to the historical cityscape, T. Shimauchi, Studies in Science and Technology 9(2), 141-148, 2020.12
- Reinventing Public Transport System in Luxembourg and its implications for foreign tourists, T. Shimauchi Journal of Global Tourism Research 5(2), 161-166, 2020.10
- Influence of instant feedback on learning motivation of university students: Promoting out-of-class learning by developing ICT materials, T.Shimauchi, M.Kimura, H.Nambo, H.Kimura, International Journal of Engineering and Technical Research 10(9), 16-22, 2020.09
- Discriminant analysis on university students' reading skills: Experiments using class learning outcomes and certificate exam scores, T.Shimauchi, H.Nambo, H.Kimura, Studies in Science and Technology 8(1), 69-74, 2019.06
- Proposal for LMS-like environment by utilizing Google Apps to promote English reading activities, T.Shimauchi, H.Nambo, H.Kimura, Studies in Science and Technology 8(1), 39-44, 2016.06
- Classification of English sentences by the degree of diffculty using machine learning, T.Shimauchi, R.Oguri, H.Ban, H.Nambo, H.Kimura, International Journal of Engineering and Technical Research 9(1), 19-26, 2019.03

講演・口頭発表等

- ICT教材を活用した即時フィードバックによる学習者の学 習意欲への影響,島内俊彦,木村誠,木村春彦,日本・中 国ワークショップ2020経営工学とICT, 2020.02
- Google Appsを利用したLMS的環境の構築: LMSの活用 未導入校における授業外学習の促進、島内俊彦、南保英 孝、木村春彦、日本・中国ワークショップ2019経営工学 とICT, 2019.02

- 小松市立高等学校・高大連携授業 「英語ブラッシュアップ 講座」講師(2018-2021)
- 小松市中学生英語スピーチコンテスト審査委員 (2023-)

デニス・ハーモン 准教授 Master of S

Dennis Harmon II

⊠ dennis.harmon@komatsu-u.ac.jp

研究 Keyword Decentred Self / Identity / Cross-Cultural Contact / **Educational Philosophy**

プロフィール

2015年 Temple University, Faculty of Education 修士課程修了

2015年 京都産業大学 全学共通教育センター 講師

2018年 北陸大学 国際コミュニケーション学部 講師

2022年 公立小松大学 国際文化交流学部 准教授

研究分野

Decentred Self / Identity / Cross-Cultural Contact / Educational Philosophy /

Psychoanalysis / Critical Theory

Philosophy of Education Society of Australasia、一般社団法人大学英語教育学会、日本国際文化学会

専門分野·研究分野

My research focuses on cross-cultural events with the primary subjects of interest being self-construction and the pedagogical implications. In addition, my research looks at cultural institutions and how they interplay with international visitors and society at large.

The first major challenge is understanding identity and self. The core challenge from an educational philosophical standpoint is understanding where and if the self exists. The consensus among philosophers is that the notion of self is a coconstructed concept built through experience in society. Therefore, self is an externality of the subject, and that the construct of the subject is mediated through the stimulus of others and their environment which is outlined in Hegel's early work in the Phenomenology of Spirit, and later built on by recognition theorist including Axel Honneth. Existence is only done by the acknowledgement of existence by self and its recognition by others. The subject exists and projects what they will be, and it is filled with the conditions and influences of the society in which the subject exists. Communities are co-created with the formation of rational subjects, and they build a world of reason and justification for their actions and beliefs within their enclave. In these communities and societies individuals have a greater investment in their ideas of self and the camaraderie produced within, and as a result create a narrative that is reproduced to suit the interest to maintain that community.

研究内容

The role of international encounters and experiential learning on student identities with interest in learning and development outcomes.

With greater internationalization and improving interconnectivity of our learning approaches including online programs, student mobility projects (study tours, study abroad, special projects), there are immense opportunities for students to develop an understanding of the world beyond the normal confines of their local communities of practice. My research primarily focuses on international programs, facilitating student opportunities to visit, engage, study and worth with students from other backgrounds. In recent projects, students collaborate with partners and team members from Australia to study and prepare for participation in a Model United Nations conference. This allows students to confront several challenges: developing skills and experience of collaborating with people from different cultural and linguistic backgrounds, developing an understanding of global issues and challenges, and developing strategies to solve these issues through consensus-



based negotiations. My research works on observing and theorizing about the identity and belief transformations students go through, while participating in mobility projects and encountering international others.



シーズ・地域連携テーマ例

- Organizes cross-cultural projects with Students from Australia and Japan
- Trains students to participate in Model United Nations Conferences

論文

- Harmon II, D. & Yoshida, A. 2021. For They Know What They've Done: Desire, Guilt, and the Ethics of Science Fiction in Media. Hokuriku University Bulletin 50, pp. 101-116.
- Harmon II, D., Yoshida, A., & Aihara, M. 2020. Three Threads: A Philosophical Dialogue on Modern Social Issues Through Marvel Films. Hokuriku University Bulletin 48, pp. 115-135.
- Harmon II, D. 2019. Decentred Hospitality: Omotenashi Culture and the Foreign Visitor in Japan. Hokuriku University Bulletin 46, pp. 53-70.
- Syquia, J., Harmon II, D. & Giordano, M.J. 2021. Teaching Second Language Learners How to Make Invitations and Refusals Using Preference Organization. Linguistics International Journal, 15(2), pp. 1-30.

書籍等出版物

Harmon II, D. & Dinnen, M. 2019. The Decentred Delegate: Adapting Identity within a Model United Nations Learning Environment. In Intercultural Mirrors: Dynamic Reconstruction of Identity (M. Claire & J. Kraven Eds.) (pp. 233-257): Brill-Sense Publishing, Leiden.

講演・口頭発表等

- Aihara, M. & Harmon II, D. 2020. Japan's Sontaku Culture as a Prism of Other-Oriented Self Among Japanese University Students – a Critical Examination of Japanese Culture and Internet Society. The 19th Japan Society of Intercultural Studies Nation Conference, Osaka Japan (Paper Presentation).
- Aihara, M., Harmon II, D. & Yoshida, A. 2020. Japan's Sontaku Culture and its Democracy Based on Fake News - a Critical Examination of Japanese Political and Internet Society. BOBCATSSS 2020, Paris France (Paper Presentation).
- Harmon II, D. & Kikuchi, H. 2019. Developing Collaborative Narratives Utilizing Online Video Discussion. The 58th JACET International Conference, Tokyo, Japan (Talk).

- Advisor, Japan English Model United Nations, (2015-Present)
- New Colombo Plan (NCP) Partner (2018-Present)

围

Department of Intercultural Communication

橋本 貴子 准教授

Takako Hashimoto

⊠ takako.hashimoto@komatsu-u.ac.jp

Keyword

中国語音韻史、中古音、対音資料、音韻変化、音声変化

プロフィール

2009年 神戸市外国語大学 外国語学研究科 博士課程·文化交流専攻 单位取得満期退学

2012年 博士(文学·神戸市外国語大学)

2019年 神戸市外国語大学 外国学研究所 客員研究員

2022年 公立小松大学 国際文化交流学部 国際文化交流学科 准教授

研究分野 中国語学

所属学協会

日本中国語学会、中国語教育学会

専門分野·研究分野

中国語音韻史の研究

中国語の発音の歴史を研究しています。歴史的文献や中国周辺地域に伝わ る漢字音、中国語の方言音等を参考に昔の発音を推定し、さらに古今の発音 の変遷を明らかにすることに取り組んでいます。

研究内容

対音資料を用いて後漢~唐代に起きた音韻変化・ 音声変化を解明する

私の研究の特徴は対音資料を重視する点にあります。対音資料とは、外国 語の発音を漢字で音訳したものや、中国語の発音を外国語の文字で表記した 資料のことです。資料成立時の発音を直接かつ比較的忠実に反映しており、 昔の発音を推定する際の重要な手掛かりとなります。

これまでは対音資料を利用して、唐代(618~907年)の発音を研究してき ました。唐代の中国北方では数々の音声・音韻変化が起きたと言われていま す。それらの変化が本当に起きたのかを検証し、起きたと言えるのであれば、 唐代のどの時期に、どこで、どのように起きたのかを解明したいと思いまし た。そこで唐代の漢訳仏典の音訳漢字を主な資料とし、更に複数の種類の対 音資料を用いて研究を行い、幾つかの音声・音韻変化について新たな知見を 提示することができました。

今後は唐代以前、すなわち後漢~南北朝期の音韻史についても、引き続き 漢訳仏典の音訳漢字を活用して解明していきたいと思います。この方面での 研究に進展が見られれば、この時期の中国およびその周辺地域で成立した漢 字資料の音声的側面がより詳しく分かるようになり、それによって東洋史学 や仏教学をはじめとする関係諸分野の文献学的研究にも寄与することがで きると考えます。



上海龍華寺の仏堂内。経幢に漢字音訳された陀羅尼 (サンスクリット語の呪文)が書かれている。



シーズ・地域連携テーマ例

- 上古音~中古音の変遷
- 漢訳仏典の音訳漢字
- 悉墨資料

論文

- ■『翻梵語』と『玄応音義』, 雲漢2, 50-67, 2024.
- Some Features of Siddham Script in the University of Tokyo Manuscript of the Chinese Version of the Aryamahā-māyūrī Vidyā-rājñī, Śāntamatih Manuscripts for Life - Essays in Memory of Seishi KARASHIMA, 139-154, 2023
- 義浄の音訳漢字におけるSanskritの/v/の音訳について, 岩田礼教授栄休紀念論文集(上冊), 109-133, 2022
- 対音資料から見た唐代の軽唇音化について: 附論 日母の 脱鼻音化, 神戸外大論叢73 (3), 121-146, 2021
- 対音資料から見た初唐期の匣母の音価について―義浄の 音訳漢字を中心に---, 開篇37, 67-80, 2019
- 悉曇文字の字形から見た『悉曇字記』の問題点―語頭の 長 ī, cha, ḍhaを表す文字の字形を中心に—, 東洋学報 100 (3), 1-23, 2018
- 梵漢対音研究概観,中文学術前沿12,112-119,2018
- Siddham Script in the University of Tokyo Manuscript of the Chinese Version of Arya-Mahā-Māyūrī Vidyā-Rājñī, 創価大学国際仏教学高等研究所年報18, 263-273,
- 不空訳『仏母大孔雀明王経』本文中の音訳語彙 ―義浄訳 『仏説大孔雀呪王経』との比較から―、太田斎・古屋昭弘 両教授還暦記念中国語学論集, 123-132, 2013

書籍等出版物

- ■『漢字文化事典』,共著,丸善出版,2023
- ■『中国語学辞典』, 共著, 岩波書店, 2022
- ■『長田夏樹先生追悼集』, 共編著, 好文出版, 2011
- ■『漢語方言解釈地図』,共著,白帝社,2009

講演・□頭発表等

- 対音資料から見た初唐期の微母と日母, 第69回日本中国 語学会全国大会, お茶の水女子大学, 2019年
- 対音資料から見た初唐期の匣母の音価について,第68回 日本中国語学会全国大会,神戸市外国語大学,2018年
- 梵漢、粟特、摩尼教對音研究概觀, 中古近代漢語工作坊, 浙大漢語史研究中心, 2016年

競争的資金等の研究課題

■ 科学研究費助成事業 (研究活動スタート支援), 「対音資 料による唐代音韻史の研究—初唐期を中心に」、研究代表 者, 2019-2021年度

単 艾婷

Aiting Shan

⊠ aiting.shan@komatsu-u.ac.jp

Keyword

テクスト構造、結束性、読書行為、内容言語統合型学習

プロフィール

2018年 九州大学大学院 地球社会統合科学府 博士課程 修了

2018年 九州大学 言語文化研究院 特別研究者 2020年 西南学院大学 言語教育センター 助教

2024年 公立小松大学 国際文化交流学部 国際文化交流学科 講師

研究分野

言語学、中国語教育

所属学協会

日本中国語学会、日中対照言語学会、中国語教育学会、日本読書学会、東アジア言語文化学会

専門分野·研究分野

日常言語からテクスト言語へ

私の専門分野は「日常言語」から「テクスト言語」への探究です。これらは私 たちが日々の生活のなかで用いる第一次言語と、より複雑な情報を伝えるた めの第二次言語として理解できます。そして私の関心は、一つの文章がどの ように「つながり」を持ち、どのように「まとまり」を形成し、どのようにその 内容を伝えているのかという点にあります。これらを解明するために、テク ストの言語面においては「選択体系機能理論」を、内容面においては「読者反 応理論」を用いて、テクストがどのように構築され、それが読者にどのように 解釈されるのかを考えています。さらに、これら基礎研究の教育現場への応 用として、新たな中国語教授法理論としての「内容言語統合型学習(CLIL)」 の構築を目指しています。

研究内容

テクスト言語学とその教育への応用:基礎から実践へ

【テクスト言語学に関する基礎研究】日本語と中国語のテクスト構造に注 目し、テクスト言語学の観点から「結束性」「一貫性」「統一性」について研究し ています。具体的には、「日常言語とテクスト言語の構造上の共通点と相違点 に関する研究」と「様々なジャンルの中国語テクストに対する構造分析」の二 つの研究課題に取り組んでいます。

【教授法理論に関する応用研究】上記の基礎研究を基に、「コミュニケー ション活動 |や「読書活動 |を統合的に導入した実践に基づく応用研究にも取 り組んでいます。具体的には、「コミュニケーション活動と読書活動の統合に よる中国語授業」のモデルカリキュラムを作成し、多角的な実践研究を通じ てその教育効果を検証しています。



科研費研究集会「ことばと旅 異文化コミュニケーションへの新 たな視座を求めて」(2025.3.4)



-度は行ってみ たい絶景 12 選



シーズ・地域連携テーマ例

- 中国語と日本語の対照研究
- 中国語教育

論文

- 協働学習を取り入れた中国語のShow & Tell活動 一学習 者産出物のマルチモーダル的特性に着目して一, 単艾婷, 『中国語教育』23, 89-109, 2025
- ブックレポート活動を取り入れた中国語授業の試み一そ の可能性と課題一、単艾婷、中国語教育20、95-115、
- 結束性の観点から見た中国語中上級学習者の誤用一接 続指標に着目して一, 単艾婷, 中国語教育18, 49-69, 2020

書籍等出版物

- ■『游中国 一度は行ってみたい絶景12選 一王全民主編《100 个地方畅游通》より』単艾婷編著,朝日出版社,2025
- ■『うきうき入門中国語』金縄初美・単艾婷・王宇南・新谷 秀明・韓景旭・梅村卓, 朝日出版社, 2023
- ■『中国 ことばの世界を旅する ―陳諶《冰箱里的企鹅》』単 艾婷編著,朝日出版社,2022
- ■『論説文におけるテクスト構造の日中対照研究 ―新聞社説 を分析資料として一』単艾婷, 花書院, 2020

講演・口頭発表等

- オーセンティックな説明テクストを題材とした中国語教 科書の作成一共通テーマに基づく書き言葉と話し言葉の 学習連携の試み一、単艾婷、東アジア言語文化学会 第8 回大会, オンライン開催, 2025.2.16
- Analysis of Classroom PPTs by Japanese Learners of Chinese from a Multimodal Perspective, Aiting Shan, The 9th International Conference on Appliable Linguistics, Shanghai Jiao Tong University, 2024.11.9

競争的資金等の研究課題

- ■「テクストジャンル分析に基づく新たな実践的中国語教育 カリキュラムの開発」、代表、科研費(若手研究)、2025-
- 「読書活動とコミュニケーション活動の統合による新たな 中国語教授法の構築」、代表、科研費(若手研究)、2022-2024
- ■「読書行為を軸とした中国語学習環境開発の基礎研究」。 代表, 西南学院大学研究助成, 2021-2022
- ■「日本人中国語学習者の作文及びスピーチの構造分析:作 文・スピーチ指導法構築に向けて一」、代表、笹川科学研 究助成。2019-2020

中

Yang Tong

oxtimes tong.yang@komatsu-u.ac.jp

Keyword

学士課程カリキュラム 高等教育 教養教育 日中比較研究

プロフィール

2004年9月-2008年7月 2010年4月-2012年3月 2012年4月-2018年3月

2018年11月-2019年6月

上海外国語大学 日本文化経済学部 日本語専攻 学士取得 教育学研究科総合教育科学専攻 大学経営・政策コース 東京大学

修士取得 東京大学

教育学研究科総合教育科学専攻 大学経営・政策コース

博士取得

外国語学部 日本語専攻 講師 東南大学 東南大学 外国語学部 日本語専攻 准教授

公立小松大学 国際文化交流学部 国際文化交流学科 准教授

2025年4月 研究分野

高等教育学、比較教育学 所屋受協会

日本比較教育学会

2019年7月-現在

専門分野·研究分野

日中比較視点の高等教育研究

日本と中国の高等教育の比較研究は、アジアの二大経済体として、それぞ れの教育システムの特徴と成果を理解し、互いの強みと弱みを把握する上で 極めて重要です。日本は質の高い教育と研究体制で知られ、独立思考の育成 に優れていますが、少子化や国際競争力の維持が課題となっています。一方、 中国は高等教育の急速な拡大と多様化を進めており、世界の学術舞台で存在 感を高めていますが、質の均一化や国際化が求められています。両国の比較 研究を通じて、それぞれの教育システムの改善と発展を促進することができ ます。これにより、アジア地域全体の教育連携を強化するだけでなく、共有さ れた経験と知見は世界の教育発展にも寄与し、国際的な教育協力を促進する 可能性があります。

研究内容

学士課程における教養教育・専門教育の有機的連携

私の研究では、中国と日本が専門教育と教養教育の関係をどのように調和 し、有機的な連携を進めるかを検討・比較することを目的としています。1990 年代以降、両国とも知識の爆発と社会の複雑化に伴い、大学は専門知識だけ でなく、グローバル社会に対応する基礎能力と教養の育成を重視するように なりました。日本では、教養教育改革は財界の影響を受けており、中国では中 央政府の政策が大きな影響を与えます。両国とも専門教育重視の伝統があり ますが、教養教育の導入には学部間の連携が必要で、その実施には困難が伴 います。中国はこれらの困難をどのように克服しようとしているのか、また 日本とは異なる困難に直面しているのかを明らかにすることが重要です。

私の研究は、①教養教育改革の社会的・歴史的分析、② 1990 年以降の高等 教育政策のマクロ的分析、③個別大学の改革事例のミクロ的分析の3点から 構成され、日中両国の教養教育改革に焦点を当てています。今後は、東アジア の視点から日中韓の高等教育の比較研究を進めていきたいと考えています。



カリフォルニア大学バークレイ校訪問時の写真



東南大学九龍湖キャンパスの授業風景



シーズ・地域連携テーマ例

- 日中両国における試験制度
- 日中大学生の学習内容・時間
- 日中大学生の就職活動

- 2021年12月 「中国外国語教学コンテスト江蘇省日本語 部門 一等賞受賞
- 2024年1月 東南大学「至善学者」受賞
- 2024年5月 東南大学「吾愛吾師」外国語学部で最も人 気のある教員賞受賞

論文

- 日本大学通专结合的30年探索及启示,杨曈,《外国教育研 究》2022年第1号、110-128、2022
- 高教大众化视野下中国大学通识教育发展的理论分析, 陆一, 杨瞳,《清华大学教育研究》2020年第4号, 36-46, 2020
- 日本の高等教育における一般教育・教養教育改革の歩み と示唆―専門教育との関係性に焦点を当てて―, 楊瞳, 『日 本学論壇』2022年第2号, 36-46, 2022
- 中国における教養教育政策の展開と教養教育カリキュラ ム-3大学の事例比較-, 楊瞳, 『大学経営政策研究』第3 号, 117-138, 2013
- A Review on Factors Shaping Undergraduate Curriculum and Their Impacts, Yang Tong, Frontiers in Asia-Pacific Language and Culture Studies. Vol. 1. Issue 2, 25-33, 2022
- Student Engagement in Chinese Higher Education Institutions for the Improvement of Educational Quality, Yang Tong, Student Engagement and Quality Assurance in Higher Education. Routledge Education Publishing. 124-135, 2019
- A Comparison of General Education Policies or Institutions of Higher Education in Japan and China since the 1990s, Yang Tong, The International Journal of Comparative Education and Development. Vol. 17, No.2, The Comparative Education Society of Hong Kong Publishing. 36-53.2015

書籍等出版物

- 中国の大学における教養教育政策とカリキュラム改革, 楊曈著,大洲智庫出版社,2020年12月
- 大学与通识教育:日本战后的摸索,吉田文著,杨曈译, 香港新聞出版社,2019年9月

講演・□頭発表等

- A Comparison of General Education Policies for Institutions of Higher Education in China and Japan since the 1990s, Yangtong, Comparative Education Society of Hong Kong Annual Conference. 2014.2
- A Comparison of General Education Reform of Higher Education in Japan and China from a Historical Perspective: from the 1940s to the Present, Yangtong, Comparative Education Society of Hong Kong Annual Conference. 2015.2
- ■「中国大学の文化素質教育政策とカリキュラム改革」,楊 瞳, 大学教育学会年度大会, 2018.6
- ■「日本の大学における教養教育と専門教育の有機的連携 (1991-2021)」,楊曈,世界比較教育フォーラム,2024.11

競争的資金等の研究課題

- ■「日本の学士課程における教養教育と専門教育の連携をめ ぐる1991年以後の政策変遷と改革の経緯」,教育部人文 社会科学研究青年基金項目, 2022-2025
- ■「学士課程における教養教育と専門教育の連携をめぐる政 策とその改革に関する中日比較」,江蘇省社会科学基金項 月. 2022-2024

黄 霄龍

Xiaolong Huang

oxtimes xiaolong.huang@komatsu-u.ac.jp

Keyword

日本中世 地域社会 寺社 日本仏教史 東アジア宗教

プロフィール

2018年 神戸大学大学院 人文学研究科 史学コース日本史学 博士課程後期課程 修了

2017~2019年 大阪大学大学院 文学研究科 特任研究員

2019年 東京大学大学院 経済学研究科 特任研究員

2021年 東京大学史料編纂所 外国人研究員(日本学術振興会外国人特別研究員)

2023年 東京大学東洋文化研究所 特任研究員

2025年 公立小松大学 国際文化交流学部 国際文化交流学科 准教授

研究分野

日本中世史、東アジア宗教社会史

所属学協会

史学会、歷史学研究会、日本歷史学会、日本古文書学会

専門分野·研究分野

日本中世地域史、東アジア宗教社会史

日本の中世後期から近世初頭にかけての北陸地域を主な研究フィールド とし、地方寺院や村落、都市における宗教的・社会経済的活動の歴史を研究し ています。

研究内容

寺社が織りなす北陸の歴史的構造を、 列島規模的、東アジア的な視点から位置付ける

研究のキーワードの一つは中央と地方です。中世日本の地域社会は、どの ような点で国家秩序や中央権力によって規定され、どのような点で規定され なかったのかという問いを提起しました。研究対象の一つは、中世日本の地 域社会史研究において蓄積が最も厚いフィールドでもある越前・若狭・加賀 です。

もう一つのキーワードは地域的宗教秩序です。ヨーロッパや中国では、中 央と協力関係にある地方組織は、しばしば互いに競争関係にありました。実 際、中世日本では寺院間の緊張や対立もありました。北陸に共存した天台宗、 真言宗、浄土宗、時衆の各寺院の違いや、中央の寺院や室町幕府との不安定な 関係に注目しています。地域的宗教秩序をより包括的に理解するために、競 争の側面と協調の側面両方を考察しています。

最近、中国仏教も視野に入れて北陸の宗教社会史の見直しを進めています。



福井・石川の県境にて吉崎御坊を眺める



潭柘寺(中国北京)の広慧通理禅師塔



シーズ・地域連携テーマ例

- 中世北陸の地域社会
- 越前・若狭・加賀
- 中央と地方
- 東アジア仏教

論文

- 中世後期越前・加賀国境地域における真言・時衆勢力, 黄霄龍, 東京大学史料編纂所研究紀要(33)51-64, 2023年3月
- Authority and Competition: Shingon Buddhist Monastic Communities in Medieval Japanese Regional Society, Xiaolong Huang, Japanese Journal of Religious Studies 48 (1) 103-123, 2021年7月
- 室町期越前国における時衆道場の展開と中央権力、黄霄 龍, 地方史研究 70 (3) 21-37, 2020年6月

書籍等出版物

- 日本中世の地方社会と仏教寺院, 黄霄龍, 吉川弘文館, 2024年1月
- 海外の日本中世史研究: 「日本史」・自国史・外国史の交 差, 黄霄龍(共編著), 勉誠社, 2023年10月

講演・口頭発表等

- 11-17世紀若狭羽賀寺と広州光孝寺における史料生成,黄 霄龍、東京大学東アジア藝文書院シンポジウム「宋代文 化と日本」、2025年3月23日
- 中世地方寺社史料論構築の試み一越前・若狭の場合一, 黄 霄龍, 日本宗教史懇話会サマーセミナー, 2024年8月26日
- 物質文化の視点からみた日本中世若狭の寺院経済史料, 黄霄龍,清華大学(北京)歴史系学術シンポジウム「古 代の東アジアと日本史研究」、2024年7月20日
- Top-down or Bottom-up: Rethinking Local Temples in Medieval Japan through Comparison with Ming-Qing China, Huang Xiaolong, Princeton University, Center for Culture, Society and Religion, Workshop "Thinking Through Minshū Bukkyō: Popular Buddhism and the Study of Premodern Japan" 2023年9月22日

競争的資金等の研究課題

- 寺院史料の生成からみた15-17世紀北陸の仏教と地域 社会, 日本学術振興会科学研究費助成事業 (若手研究), 2025-2028年度
- 賀茂別雷神社の総合的研究, 東京大学史料編纂所特定共 同研究中世史料領域, 2025年度
- 古代・中世法制史料の英訳とグロッサリー研究,東京大 学史料編纂所一般共同研究, 2024-2025年度
- 日本中世の地方社会と仏教寺院、日本学術振興会科学研 究費助成事業研究成果公開促進費(学術図書), 2023年度
- 日本中世後期における宗教勢力と社会転換:京都と北陸 地域の関係を中心に、日本学術振興会科学研究費助成事 業特別研究員奨励費2021-2022年度